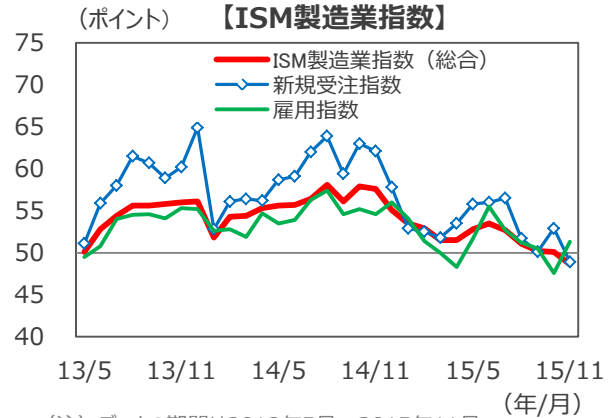


今日のトピック 米国のISM製造業景況感指数（2015年11月） 景況感指数は低下したが、利上げへの影響は限定的

ポイント1 総合指数は50割れ

生産、新規受注、在庫が悪化

- 11月のISM製造業景況感指数は、総合指数が48.6ポイントとなりました。前月の50.1ポイントから低下し、好不況の分岐点となる50ポイントを割り込みました。総合指数の50ポイント割れは、2012年11月以来3年振りのことです。
- 内容を見ると、総合指数を構成する5指数のうち、新規受注、生産、在庫指数が50を下回りました。他方、上昇したのは雇用と入荷遅延でした。



(注) データの期間は2013年5月～2015年11月。
(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセット
マネジメント作成

ポイント2 需要の鈍化を示唆

雇用指数は将来の需要回復を示唆

- 新規受注、生産、在庫指数の低下は、需要の鈍化と、それに対応した在庫の削減を示すものです。国内の個人消費が堅調に推移していることを踏まえると、ドル高や中国経済の減速などによる輸出の伸び悩みが原因と考えられます。
- 一方、雇用指数は50台を回復しました。企業が将来の需要回復を見据えて人員増強に乗り出したことを示唆するものです。

【ISM製造業指数】

	(ポイント)			
	9月	10月	11月	前月比
総合	50.2	50.1	48.6	▲ 1.5
新規受注	50.1	52.9	48.9	▲ 4.0
生産	51.8	52.9	49.2	▲ 3.7
雇用	50.5	47.6	51.3	+3.7
入荷遅延	50.2	50.4	50.6	+0.2
在庫	48.5	46.5	43.0	▲ 3.5

(注) 総合指数は、上記の5つの構成指数の平均。
(出所) ISMのデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

今後の展開 製造業は停滞だが、非製造業は好調、12月に利上げの見通し

- ISM指数から判断すると、製造業の生産活動は当面、横這いで推移すると予想されます。他方、良好な雇用・所得環境を背景に、サービス業は順調に推移しています。製造業の停滞はサービス業の好調が補い、米国経済は拡大を続ける見込みです。
- イエレンFRB議長は、最近の講演で米国経済には政策金利引き上げの条件が整っているとの認識を示しました。12月15日と16日に開催される次回のFOMCでは、景気、雇用の順調な拡大を背景に、利上げが実施される見通しです。

ここもチェック! 2015年12月 1日 2016年の「FOMC」メンバーはタカ派寄り? (米国) 2015年11月20日 最近の指標から見る米国経済 (2015年11月)

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。